

第3学年 特別活動指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 公開授業1
 学 級 3年(男子5名 女子5名 計10名)
 授業者 教諭 中嶋 弥生
 地域講師 館 林 克典

1 題材名 「社会の一員として生きる」

2 題材について

(1) 教材について

誰もが社会という集団の中で生きており、集団である以上そこにはその集団に属す一人一人が等しく生活できるためのルールが必要となる。そしてそれを守るにあたり常識やモラルが大切になる。しかし、現在それを欠くことによる事故や事件が毎日のように報道され後を断たない。

中学校学習指導要領第5章特別活動の第2「学級活動」の「内容」の中に、「社会の一員としての自覚と責任」という一項がある。その解説には「中学生ともなれば、集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながら各自の責任を果たすことによって集団や社会が成り立っていることを理解できる発達段階にあり、所属する集団や地域の中で責任や役割を担う機会も増えてくる」とある。義務教育9年間を間もなく終え、数年のうちに社会人となる中学生に常識やモラルの大切さを教えることは重要なことと考える。そして、単に常識やモラルとは何であるかという知識だけではなく、正しく判断するための基になる考え方をつかませ身につけさせること、そして社会の一員として責任ある行動をとり、進んで社会に貢献しようとする気持ちを持つようにさせることが大切と考えこの題材を設定した。

(2) 生徒について

稲刈りや普段の食事作りなど、家庭の中で仕事をもち働いている生徒は比較的多い。また、ソーシャルサービス(廃品回収)や地区民運動会には全員参加しており、地域の一員としての役割を多少は自覚していると言ってよい。しかし地域という集団の中ではまだ庇護され守られる立場にあり、そこには進んで地域や社会のために行動する姿は見られない。中学校を卒業するまでに、助け合いや譲り合いの必要性に気付かせ、社会の役に立つという視点から物事を見たり考えたりすることができるようにさせたい。

(3) 指導について

ア 指導観

当然の事として理解している常識やモラルも、実行できなければ意味を持たない。また、自分が描いていることが常識として正しいものなのかどうか正しく判断できなければ、一人よがりになってしまう。

この題材を通し、「迷惑をかけない」という視点から社会の常識やモラルについて確認させ、それを基に「社会の役に立つ」という視点から社会の中でどのような生き方をしていったらよいのか、何ができるのかを考えさせたい。

本時では、身近にいて地域のために大きく貢献している方々の中から、前PTA会長さんをゲストに招き、活動している時の気持ちや活動を継続する中での気持ちの変化などについて話していただき、生徒個々の今後の自分の生き方についての考えを深めさせたい。

イ キャリア教育との関わり

収入を得るための勤労観・職業観とは異なり、地域社会の中で生きていくとき、そこには無償で地域社会に貢献する姿がある。それを広い意味で勤労観ととらえ、実践しようという気持ちを起こさせたい。

人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力		意志決定能力	
自他理解能力	コミュニケーション能力	情報収集・探索能力	職業理解能力	役割把握・認識能力	計画実行能力	選択能力	課題解決能力
○				◎		○	

3 指導計画（2時間扱い）

- 事前指導 社会人のマナーについての事前調査
 本時の指導 「社会の一員として生きる」
 事後指導 学級の一員として卒業までどのように生活していくのか作文を書く

4 本時の指導

- (1) 本時のねらい
 人間関係づくりや集団への適応能力の大切さを理解し、自分のあり方、生き方を考えることができる。
- (2) 展開

段階	学習内容	学習活動、発表・表現の場面	指導上の留意点、支援、◇評価
導入 10	学習課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 例を見て、社会の一員としてふさわしい行為かどうか考え、判断する。 本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査結果や新聞、雑誌の記事などを用いて、迷惑にならないという視点で考えさせる。 迷惑をかけないで生きるだけで良いのか考えさせる。
社会の一員として役立つ生き方について考えよう。			
展開 35	社会人に求められる行動 社会に役立つ生き方 自分にできること	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員として役立つには、どんな生き方をすればよいのかを考え、発表する。 社会人としてふさわしい行動をとるために必要なことを考える。 前PTA会長舘林克典さんの話を聞く。質問をしながら、考えを深める。 自分の仕事とは別に、地域や社会のために多くの活動をしている人を知ることを知る。 社会における助け合い、譲り合いの大切さがわかる。 社会人としての生き方について、今後どのような姿勢を持っていこうと思うか考え、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な場面を想定しながら考えさせる。 社会の役に立つという視点を持たせたい。 助け合い、譲り合うことが必要であることを感じ取らせたい。 メモをとりながら聞くよう指示する。 ◇地域のためにどんな思いをもち、どんな活動をしているのかを理解できる。 -----〈知識・理解〉----- 話を聞き理解する。 将来やってみようと思うことや中学生の今でもできることについて考える。 ◇社会に役立つ生き方について具体的に考えることができる。 -----〈役割把握〉-----
振り返り 5	学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> お互いの発表を聞き、残りの中学校生活で心がけることや、社会の一員としての役割について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入し今日の学習を振り返らせる。 講師へお礼をし、終わりとする。

(3) 本時の評価規準

本時の評価規準	評価場面	具体の評価規準		
		A:十分満足できる	B:概ね満足できる	C:努力を要する生徒への支援の方法
[知識・理解] 地域のために どんな思いをもち、 どんな活動をしているのか を理解する。	講師の方の話を 聴く場面	どのような活動をしてきたのかを理解し利益を求めずに活動する思いを聴き取ることができる。	どのような活動をしてきたのかを理解し、活動に対する思いがわかる。	小中学校におけるPTA活動を思い出させ、親や地域の人の思いについて気付かせる。
[役割把握] 社会に役立つ 生き方について 具体的に考える ことができる。	社会の一員として どのように生きていくのか を考え、まとめる 場面	社会に役立つ生き方について、自己の将来の姿と合わせて理解し、生きる姿勢について具体的に考えることができる。	社会に役立つ生き方について理解し、自分にできそうなことを考えることができる。	何かをして誉められた体験を思い出させ、人の役に立つことを考えさせる。